



KOBE MONOGATARI

# 神戸の物語

緒方しげを NO. 14



春を感じたら、気分はフォーマルです……



- 木下真珠オーダーサロンでは、春のシーズンにさきがけて、フォーマルな装いのための各種真珠・ジュエリーを取り揃えています。

WHOLESALE & EXPORTER of cultured pearls  
 KINOSHITA  
PEARL  
CO.,LTD.

*Order Salon*

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)



祝／神戸開港120年

ハイカラの伝統いまここに…

**W** 洋服ノ粹 **渡邊**

東京・大阪・神戸・姫路

神戸市中央区磯上通8-1-32 グリーンビル TEL 078-251-8501(代)

営業時間 9:30AM～6:30PM 定休日 毎月曜・第3火曜日

# あまく楽しく、アイ・ラブ・ユー。



from

キュートなハートのソープがいろいろ。キュッと、キュッと磨いて男をあげてもらいましょう。

Wash Towel ¥500 ウォッシュタオル  
Soap (1 cake) ¥100 ソープ  
Body Brush ¥1,800 ボディブラシ

■ 5階バス用品、タオル売場



左党の彼には、やっぱりコレ。アイ・ラブ・ユー。のプレート添えて、つる想いを告白しては？

Nikka/The Blend of Nikka (660ml) ¥5,000 ニッカ/ブレンドオブリック

■ 地1階洋酒売場

Plate ¥2,000

プレート(フランス製)

■ 6階ステーションナリーショップ



氷のカタチになったチョコレートで、今夜はふたりの愛に乾杯 / Goncharoff / On The Rocks Chocolate ¥600

ゴンチャロフ / オンザロックチョコレート

■ 地1階洋菓子売場



こだわり派の彼には、本格派のコーヒーが楽しめるエスプレッソを。Officina Alessi / Espresso Coffee Maker ¥19,000

オフィチーナ アレッシェ / エスプレッソコーヒーマーカー

■ 6階ステーションナリーショップ



男の人のエプロン姿も、とても新鮮。おいしい手料理、期待できそうです。

Doug Wilson / Apron ¥2,000  
ダグウィルソン / エプロン ■ 4階ダグウィルソンショップ



to



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121 水曜定休

# 生活公園

彼と彼女のハートをつなぐキュービット役になりたい。そう思って、楽しいバスグッズ、モダンなステーショナリー、あまいチョコなど、愛の種をいっぱい準備しました。春のフレッシュなものたちも加わって、生活公園からアイ・ラブ・ユー。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121 水曜定休

海に見える白いチャペルでウェディング。

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッションブルなブライダルは、恋人たちの夢。  
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての  
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。  
カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

ゴルフ ポートピア88

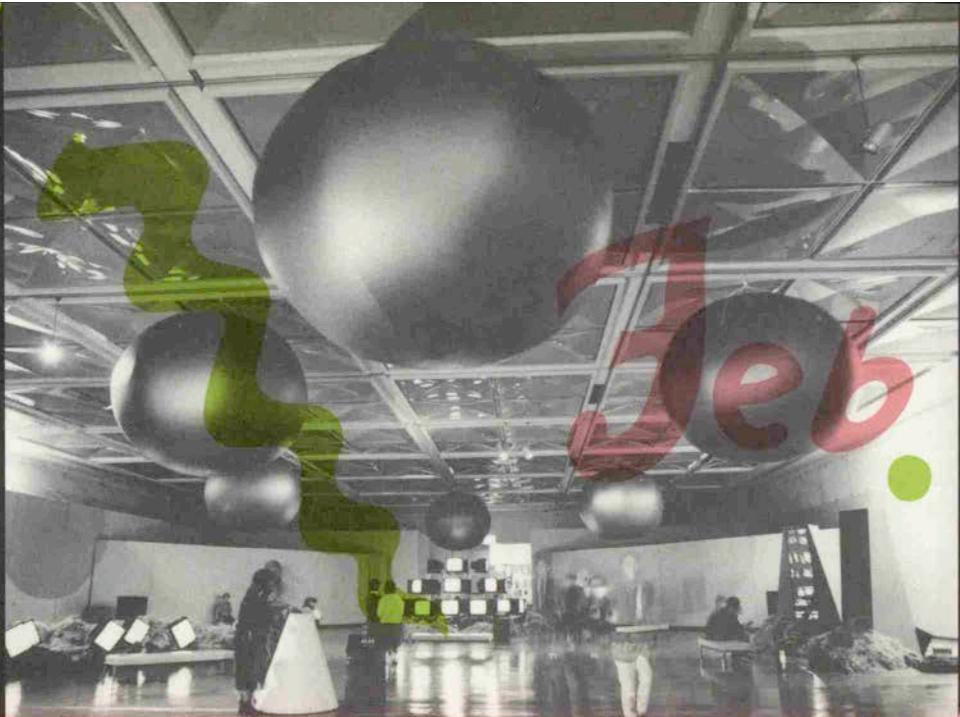
神戸 眞月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

本社/〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ゴルフ ポートピア88  
ポートライナー中埠頭駅前  
(ゴルフ白いチャペル前)





これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です

2月号目次 ● 1987・No.310

表紙／小磯良平

セカンドカバー／中西勝

9 神戸っ子'87／電巻電次・戸島和博

12 ある集い／①ブライタン協会②熟女塾

15 コウベスナップ／合同祝賀会・消防出初め式

16 美の小箱／②赤松玉女／文・赤根和生

18 神戸の物語／カメラ・緒方しげを

29 私の意見／笹山助役

31 随想／有馬柏風・上谷重男・角田嘉宏

34 連載エッセイ／島京子・絵／早川良雄

36 こうべ味な旅／植村達夫・絵／石阪春生

38 KOBE 音楽夜話②／後藤悦治郎

41 地域文化論／嶋田勝次

42 (酒特集) ①エトランゼ達の酒談義

48 (酒特集) ②神戸酒徒番附発表

55 (酒特集) ③灘の銘酒、その魅力を探る

59 (酒特集) ④酒蔵ウォーキングマップ

64 キャンペーン座談会／「スポーツマインドで人作りも、

街創りもヘルシーに」武田建・久保田武・大村雅文・米

田一典・小林秀行

72 70 経済ポケットジャーナル

有馬威時記

74 話題のひろば／①星のXマスパーティ②国際親善パーティ

76 KOBE ファッションボックス

84 神戸のお嬢さん／久保淵英子・福本孝子・森本由紀

86 ファッションウォッチング／佐藤 廉

88 プロフェッサーPの研究室／岡田淳

113 コーヒーブレイク

114 動物園飼育日記②／亀井一成

118 小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／杉浦忠

122 スポーツエッセイ／伊達萬里子

126 神戸の集いから

130 神戸を福祉の町に／橋本明

133 珈琲を飲みながら／児玉靖枝

134 KFS ニュース

138 出会いの旅／青木重雄

140 KOBE MODERN CURTURE

142 シネマ試写室／淀川長治

146 神戸百店会大より

148 ぴつといん

149 ボケットジャーナル

150 神戸・発見②／都市 その再生のために 季村 敏夫

154 連載小説／田能千世子・カット・堀江優

176 KOBE ハイカラ文化史(序)／鈴木正幸&鈴木正幸

178 海・船・港／邦船海外航路一番船「東京丸」海市悠太郎

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・坂上正治

新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000) 2月号

■ビッグインタビュー



元永正

〈創造の世界〉「大阪ガス文化エネルギー研究所」倉光弘巳所長  
・〈孟さんの新風俗記〉灘の酒蔵をいく 絵・文 / 高橋孟  
・〈大阪の曲がり角〉文 / 木津川計  
・〈玄妙禅談〉文 / 村瀬玄妙  
・〈カルチャーカレンダー〉  
・〈住宅情報〉  
・〈タウンジャーナル〉

第4回大阪女性文芸賞  
受賞作一挙掲載「凍結幻想」

文・西口典江 / 挿絵・庄野予侑子

程さんのうんちく

料理塾 程一彦

関西百撰会

特集

1. 大阪商工会議所大研究

〈グループ登場〉ルネッサンスの会・〈日本の宝との出会い〉・西宮神社「赤門」文 / 河野通紀  
・〈パーソナリティ'87〉立野純三、柳橋七三子、今西慧、角本稔  
・〈上方味覚紀行〉「煌日庵」文 / 楠本憲吉  
・〈大阪有名大会〉  
・〈すまいはアトリエ〉

2. 究極のグルメ考

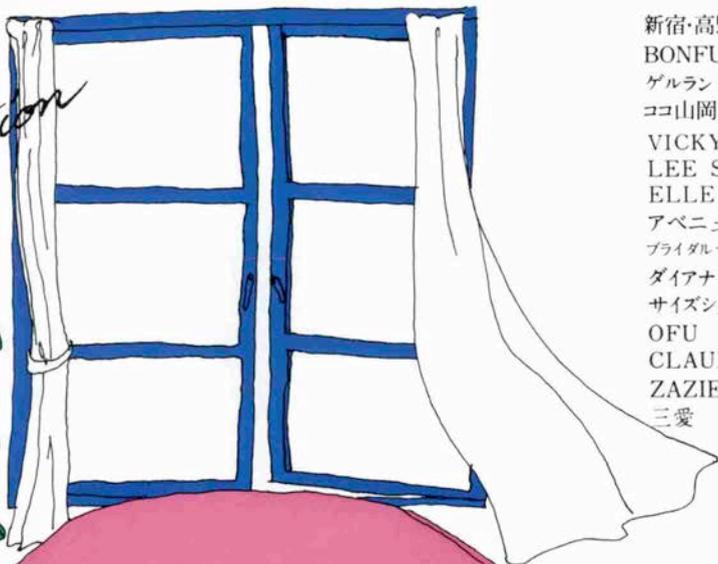
明日の大阪のために、未来を築く原動力となるべく、「美・感・遊・創」を掲げてまい進する。  
食文化の真髄に迫る一億総グルメと言われる昨今。ワインと日本酒を飲みながらの新機軸のシンポジウム。会場の人々のメッセージも

★スターハイライト

笑福亭 鶴瓶



Spring  
Collection



新宿・高野  
BONFUKAYA  
ゲルラン  
ココ山岡  
VICKY  
LEE SOPHY  
ELLE  
アベニュー22  
プライタルサロン・ループル  
ダイアナ  
サイズショップダイアナ  
OFU  
CLAUDE LEMA  
ZAZIE  
三愛

**FASHION  
PARK**

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

**3F**

営業時間 ———— A.M11:00~P.M8:00  
PHONE ———— 078(332)1698

いま、高感度に

「食」の

知遊空間

GUESTHOUSE

OLD

NEW

神戸市灘区六甲台町6-2  
TEL 078-881-6641  
10:00AM~2:00AM(年中無休)

☆私の意見

# 開港120年を

## 機会に

### 港の再認識を

笹山 幸俊

〔神戸市助役〕



神戸港は、今年開港120周年を迎えました。神戸の街は港と共に発展してきたと言っても過言ではないと思います。そして、神戸の街の未来も、港を抜きにしては考えられません。

今年、春と秋に、120周年を記念して、様々なイベントが予定されています。それらを通じて、市民の皆さんに、神戸港が過去に担ってきた役割に対して、お祝いして頂かなくてはいいけませんし、これを切っ掛けにして、港というものを再認識して頂きたいと思っています。特に、最近、市民の皆さんより、海と陸との繋がりが悪いという意見をよく聞きます。確かに、物理的に臨港線があったりもしたために、そのような傾向はありました。しかし、港と街というのは、本来は一体になっていなくてはなりません。それが、港街の良い所です。

今年完成する、メリケンパークや、神戸駅に計画されているハーバーランドなどによって、市民の皆さんが、港に足を運ぶ機会が増えることを期待しています。

全世界的に、ウォーターフロントの再開発が進められています。神戸には大きな河がありませんので、その代わりに海に親水性を持たなくてはいいけません。より海に、港に近づく。神戸の街は坂が多く、物理的に困難な面が多いのですが、港も色々な計画を立てて、活性化を図っています。いわゆる「ポート・ルネッサンス」ですが、市も、現在の旧海岸線、埠頭、港湾施設を再開発して、街に近づくことに力を入れるつもりでおります。

いずれにせよ、21世紀を近くに控え、海にまつわる産業が、色々と難かしくなっていますので、120周年をきっかけに、21世紀を担う若い人達に、船や海について再認識して頂き、そして、問題意識を持って勉強して頂きたい。

そのような若者が希望を持って、神戸港に関わる仕事に携われるように、私達も勉強し、努力して行くつもりでおります。

こんにちは赤ちゃん



堀 雅之くん / 芦屋市東芦屋町  
おすわりができてママは大よろこび

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科

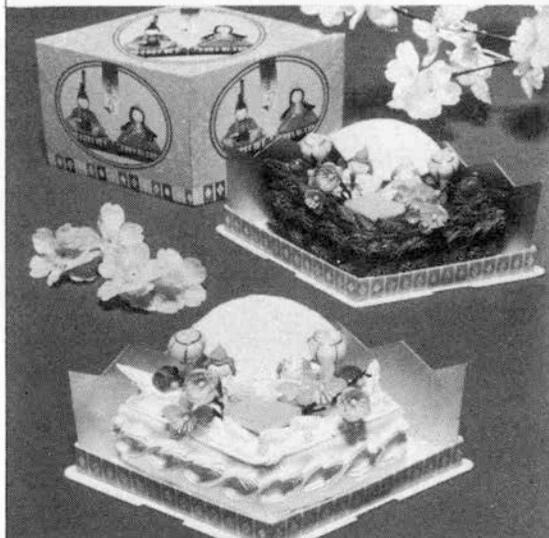


芦屋市大柵町1番18号  
芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

三月三日はひな祭り

嬉しい、嬉しい  
ひなまつりには  
菱形デコレーションをどうぞ



- ★クリーム・チョコレート 小 ¥1200
- ★クリーム・チョコレート 大 ¥1800
- ★生クリーム 大 ¥2000
- ★ヘアドール (生クリーム) ¥1000

北欧の銘菓

2-人イム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市中央区熊内町1-8 TEL 221-1164

# 随 想



絵、有馬柏鳳

## 神戸ビーフで

## 飛んでみたい

有馬 柏鳳（水墨画家）

卯は 日を生むなり  
朝六つ夜明けと云ふ  
入戸を開くの時なり  
故に 卯の字は  
戸の字を右左へ開きたる形なり  
月にとれば二月  
草木葉をうむ候なり

私は新年の色紙に、二兎の絵を



作品の前で有馬柏鳳さん

描き、この言葉添えた。

昨年、十一月末から、生田神社  
会館で三回目の個展を開き、この  
二兎の色紙も喜んでいただいた。

絵筆を執ると、夜中も、朝も、  
昼もない生活が毎日続くが、私の  
体力づくりは「神戸ビーフ」であ  
る。「ええ年して肉食は止めなア  
カンよ」と注意を受けるが、いや  
これぞ私のエネルギー源。止める  
訳にはゆかぬ。

なぜかといえば、私は二十六才  
で離婚して独身になり、ビーナツ  
専門店として兵庫の下沢七丁目に  
ある有馬芳香堂の家に就いた。

二つ違いの弟と共に、仕事仕事  
にあけくれたのだが、61才を定年  
に社長業を弟にバトンタッチ。趣  
味の水墨画が、今度は本職になっ  
てしまった。プロになったため  
に、いつの間にかやらせ〇人ほどの

お弟子が出来て九鳳社を結成し個  
展も、おかげ様で三回目を迎える  
ことができたのだ。いずれにして  
も、卯年を迎えて65才になるのだ  
から、とにかく体力がいる。その  
ための「神戸ビーフ」は、私にと  
って欠かせぬ有難たい食べものな  
のである。お肉は、三宮そごうの  
大井肉店で買う。ステーキならし  
よう油味カラシでシンプルにい  
ただく。焼くにしても、肉にネギ  
を丸めて食べる。量は200g。そし  
て後はおかいさん。最近では電気水  
炊器も、おかいさんの炊けるのが  
あり重宝している。もう一つは、  
わが家の自慢、ビーナツ入りのみ  
そ汁とビーナツ豆腐。みそ汁はビ  
ーナツをすり鉢ですって入れる。  
この風味は格別。ちよっぴり栄養  
満点なのがスリムでない私にとっ  
ては難点ではあるが、ぜひためし  
ていただきたい。

個展が終つてすぐ旅に出た。シ  
ンガポールでは、解放されて、ど  
んなに楽しいショッピングだった  
か……。よく歩き、よく食べ、よ  
くしゃべり、個展前の缶詰状態の  
日々のおつぶんを晴らして、ほん  
とにさわやかになった。でも、や  
はり神戸はいい。旅に出ても神戸  
ほど何でも美味しいところはな  
いのではないかと思う。

卯年の卯月。草木葉を生む候と  
なったが、私の草木は「神戸の美

味しい食べもの”である。今年もすっかり「神戸ビーフ」にあやかっ  
て、兎のように飛んでみたいと思  
っている。

## 神戸、そして 横からみると

土谷 重男

△建築家△



神戸は都市の中で「海と山」を  
両の手で触覚的に感じる事の出来  
る日本の中で数少ない都市であ  
る。このような恵まれた風景の中  
で多くの個性美を育て、歴史スト  
ックを育てて来た。これら各地域  
の種々雑多なイメージが重なりあ  
いながら創られて来たのが今日の  
神戸のイメージ。

これら神戸からの情報を他の地  
方の人々が受け取り、各自の中で  
「独自の神戸に対するイメージ  
像」を育て上げる。これらのイメ  
ージ像が「北野」であったり「メ  
リケン波止場」であったりするわ  
けである。

海と山に対するイメージを持つ  
て訪れた人々は、両方を一度に見  
ようと「場」を探す。そこで見る  
ことの出来る、神戸の風景は高遠

道路によって切断され、自分達が  
育てていた「神戸のイメージ」が  
幻想であったことに気づく。

今日、神戸の街創りの中で、「フ  
ァッション都市」「コンベンショ  
ン都市」「ウォーターフロント計  
画」「KK神戸市」等、何か実体  
が伴っていない「言語媒体」の  
イメージ戦略が次々に浮遊してい  
る。これら「媒体」がどれ程、地  
域住民の間で認識をもたれている  
かは疑問であるが、まもなく私達  
の前に「実体」として現れて来る  
二十一世紀。その時、都市は経済  
の流れの中でより国際化への道を  
歩むであろう。これらの過程が、  
より実体を伴ったものとするた  
めに、これから創られて行く都市  
空間は、地域の人々が意識をもつ  
て「プロジェクト」を理解し、都  
市機能の中に参加出来る「システ  
ム」を考える事が必要であろう。  
言うまでもなく、どの地域にも  
人々に長い生活歴史がある。歴史  
の流れの中で地域を考えて行く  
時、地域に住んでいる人々、働い  
ている人々が、地域に対して自か  
らの意識の中で問答すると同時  
に、計画を行う側は地域の人々の  
意識を豊かにしていく、という考  
えが必要であろう。

今日、神戸においてもいろいろ  
の型で「街づくり」「街の活性化」  
が実行に移されたり、提言されて

いる。よく考えてみると、「港神  
戸」が十数年までもっていた機能  
の喪失と経済構造の転換が他の地  
域と比べてスムーズに行なうこと  
が出来なかった事の中に神戸の姿  
が今日見られる。例えば昭和初期  
まで日本の中でも有数の情報集積  
機能を有していた「港」は、今日  
では、その機能を「空港」や他の  
地域に取られ、神戸そのものが今  
日の都市構成の重要素である「情  
報集積」が出来にくくなってい  
る。それは今日の居留地の地盤の  
低下をもたらし、神戸全体が都市  
化して行く中で「元町」が人間の  
な「香」を残していると良くいわ  
れています。その「香」は人間  
を本当に考えたものでないため  
に、人が集いたくない空間になっ  
てしまっている。

神戸の代表的な「街」を二つ程  
述べてみたが、戦後から今日まで  
の都市構成の最大の目標は「近代  
化」と言う名の信仰にも似たもの  
であった。その言葉は日本におい  
て盲目的とも言える程のコンセン  
サスを人々の中で得ていた。高度  
経済成長に行きつづまった都市は今  
日、又異なった「キーワード」を  
押し始めた。それは何なのであろ  
うか？ その姿が「三宮再開発の  
駅前」「ポートアイランドの空間  
構成」であるなら残念なことだ  
ある？ これからの都市は「住民

の意識を高める都市」でなくてはならない。そこに「近代化」にかわる「キーワード」があるであろう。

## ホモ・ルーデンス やっています

角田 嘉宏

△弁理士▽



ホモと名がつくと、同性愛と間違われそうであるが、さにあらず。ホモ・ルーデンスは、オランダの文化人類学者ホイジンガー先生の言葉で、「遊び人間」などと訳されている。

ここ一〇年ぐらいの私は、ホモ・ルーデンスであると思ってきました。だからと云って毎日遊び暮して来たわけではないし、特許とか商標とかの弁理士の仕事を疎かにして来た、というのでもない。要

は仕事の分野でも、それ以外の分野でも、旺盛な好奇心をもって「遊び」の要素を大切にしながら、生きて来たつもりだ。例えば、外国の弁理士や弁理士と、訴訟や技術援助契約などの交渉をするとする、その人達がどんな手紙を書いて来、どの様な法律的な手を打ってくるか、そして交渉の席に着いた時、どんな顔をして、どういうことをどの様な順序で発言してくるか、へボ将棋などより、よほど面白いものだ。

交渉のあとは会食になる。フランス料理なら先づ、食前酒の話からはじまる。ドライシエリーか、キールか、などなど……。サンフランシスコのレストランのメニューに、ドーバーソール(英仏海峡のシタビラメ)とある。ホンマやろか。それからメイン・ディッシュとワインの話に移る。ドイツワインは甘いから敬遠しようか、歯ぐきをキュッとひきしめる様なシヤブリではじめて、あとは絹の舌ざわりのマルゴー村のジスクールにしようか、などという。「ところで、コーベ・ビーフはホンマにビールを飲ませてマツサージするんか」などと聞いて来る。という風な会話が進んでいる頃には、交渉相手の人柄がかなり解ってくる。誠に楽しい「人間ウォッチング」なのだ。桂春団治をうたったカラ

オケ「浪花しぐれ」ではないけれど「うまいもん食うて、うまい酒飲んで、相手がほれてきたら、こっちもほれたる」いう心境になって、仕事を一生懸命やりながら遊べるのである。

毎月の遊びとしては、神戸ワインサロンがある。この会は五年前、淡路屋の寺本渥、彫刻家の新谷秀紀、サンTVのプロデューサー村上和子の各氏と私の四人が言い出しっぺとなって出来たものだ。ワインの好きな仲間が集まって、値段の安いテーブルワインから、幻の銘酒ロマネコンテイまで、この五年間で飲みも飲んだり、ビンテージ(醸造年度)の相異を含めると五〇〇種類。ワインテイステイングもさることながら、そのメンバーが神戸のピカイチジェントルマン長島隆会長(神戸地下街副社長)をはじめ、画家、彫刻家、学者、実業家、医師、マスコミ人と多彩で、ワインをさかんにワイワイガヤガヤ、これが楽しい。この他、私がよく出席する、食って飲んでたべる会は沢山あって、私の生活はやや忙がしすぎる。けれど、そんな会合の中で、いろんな人達との交流を通して、同時代に生きる人間としての共感を得ることは、私の最大の楽しみなのではないかと思っ



’61.12月に開かれた神戸ワインの会にて



□エッセイ

# 江維娜さんに 聞いたこと 〈その二〉

島 京子

絵／早川良雄

江維娜（こう・いな）さんに、拙著のひとつを  
進呈したら、早速読んで下さったらしく、二、三  
日して

「——ユーモアをまじえて、活発的な構想、こん  
な文章のスタイルが、私は大すぎです——」

感想を書いた手紙を頂いた。

日本語の微妙なニュアンスまでこめた、江さん  
の手紙に、心底よりおどろきながら、（それに平  
かなの手なれた形の美しいこと）頭をひねった。

若い江さんが、このように日本語に習熟してしま  
ったのは？いつのまに？つまり時間的にふしぎで  
あった。

江さんは、私の住んでいるところから、歩いて  
二十分ほどの住宅街にある、女子大の寮に起居し  
ている。上海の華東師範大学の社会学科教師で、

いわゆる交換留学生でもある江さんと、知り合い  
になれたのは、兵庫県教職員組合の婦人部長・久  
野禮子さんのおかげである。

「八等身で、典型的な中国美人やわ、日本語もで  
きるし。何しろ何億人の中から選ばれた、超エリ  
ートやから、そもそも、えらい秀才やわ」

私自身のことをいうと、美人と秀才にはきわめ  
て弱い性格である。

「へえー、そら是非会いたい、外でお会いしても  
ゆっくりできないから、うちでは是非——」

二人を迎えに、駅までゆき、せまいわが住居へ  
案内する。

あらかじめ久野さんから聞いていた通り、江さ  
んは笑顔のいい、花の茎のようにすらりと伸びた  
姿体の美人であった。

「上海の私の家の方が、もっとせまいです」

江さんは、坐る場所があるだけのわが部屋に恐縮する私に、すぐ反応した。私たちの話題は、住宅問題からはじまったといつてよい。一千万人以上がひしめく上海の住宅事情の困難さは、聞くほどに大へんなものだと思う。江さんは昨年結婚したばかりの愛人（伴侶のこと）と両親を残し、家族社会学の研究に日本にきた。

「住宅は、みんな公共。政府が建ててくれるもので、私たちの家は大学があっせんしてくれたものです。私の両親を、夫がみてくれています」

夫の両親は、夫の弟と同居、というふうには、二世代同居が三十パーセント。おいおい多くなりそうな離婚についても、家を出た一方の住むところがない事情では、どうすることもできない。

「愛していない人の顔、毎日見て暮すのは、苦しいことです。私は社会学でも革新派ですから、離婚が全部わるいとは思えない。愛情がなくなれば夫婦は離婚すべきだと思う。思想的に共同感をもてる人と暮すのがいいと思う」

社会学の革新派に対して、伝統派は、伝統的不合理性を、いまだに推進している。離婚即不道德家庭外の恋愛に至っては、輿論の糾弾もあり、職場ではたちまち昇職（昇進）に響く。またホテルは、結婚証明書のない男女は宿泊することはできぬし、別々に部屋をと一方の部屋に忍んでゆくにしても、管理人（ホテル側の）に見つかる恐れは多分にあり、こちらで流行るところの不倫は、到底かなわぬ、ということだった。

「日本では、家庭外の恋愛に対して、輿論はどう

ですか」

江さんは聞いた。

「うーん、輿論ですか。まあ個人的なことだ、として、見て見ぬふり、ということもあります。うるさく追求される場合もあるし——だけど、中国では、自然に離婚はふえるでしょうね。そんなに愛情の追求をせきとめられたら——」

「私もそう思います」

中国での女性の就業率は八十五パーセント、待遇面での男女差はむろんない。

「中国の女の人の多くが、いま出世したい、と希っています。中国には『主婦』という言葉はありません。私がいまいる日本の大学の学生は、大学で勉強して、いい奥さんになります、と言います。誰に聞いても同じです。」

江さんが、ふしぎに思う点だ。

いま中国の大学生の三分の一は女子、中高等学校の半分が女子。

「最高幹部に女の人は少ないが、中等幹部には多いのです。どんな職業にも女は進出していきます。運転する人の半分も女です。社会的地位のために女の人は働いています」

江さんの話を聞いていると、時間はすぐ経ってしまう。

「日本語は、どういうふうにして勉強したの」

聞けば、独学みたいなもので、テープとかで聞き、覚えた、という返答だった。



▲筆者紹介

一九二六年神戸生まれ。一九六五年「瀧不飲盜泉水」で第54回芥川賞候補。一九六八年「逃げた」で第一回三洋新入文化賞を受賞。「VIKING」同人。著書に「夜の訪れ」「母子幻想」「瑣事雑々」等。

●こころべ味な旅(30)

# 活字で読む 「神戸の味」

文・植村達夫 絵・石阪春生

昭和三十年八月から昭和三十九年三月迄、私は神戸市内に住んでいた。東灘区御影町に七年余、最後の一年は灘区篠原北町の六甲会館学生寮が私の住まいだった。六甲会館時代は、転動で東京へ行った両親と離れての下宿生活。月末になると母から送られて来る現金書留を心待ちにしていたものである。

親元からの送金の直後や、アルバイトの臨時収入があったときに訪れたのが、大丸近くのニュートーキョーである。ここで安いランチをとり、付け合わせのキャベツやレタスに至る迄、何ひとつ残さず食べた。学生寮住まいで、栄養が片寄ってはならず、月に一回ぐらいは「うまいもの」を食べなくてはと思っていたからである。今から思うと、ささやかなぜいたくであった。

生田神社西にあったユーハイムに行ったのは昭和三十一年頃である。中学生の息子(すなわち私)がいるのにケーキに目がない父が連れていって



植村達男著  
「神戸の本棚」  
頭草出版サービスセンター

れた。ケーキというものが、これほど美味しいものであることを、そのとき初めて知った。それに店の雰囲気良かった。お客も老若男女、日本人・外人と色々で、後年、中高年層の固定客がいるコーヒー店は味の良いコーヒーを飲ませるといふ「法則」をみつけるきっかけともなった。ユーハイムは堀辰雄の小品「旅の絵」(昭和八年)や、谷崎潤一郎の代表作の一つ「細雪」(昭和十八年)と昭和二十三年)で、作品の小道具として見事に描かれている。また、約二十年前、東京の芝白金の古本屋の廉価本の中から捜し出した「ユーハイム物語」(昭和三十九年・株式会社ユーハイム発行・非売品)は、私の数ある神戸関係の蔵書の中で貴重な一冊である。

コーヒーといえば、センター街からちょっと南へ下ったところにあったコンコードが懐しい。この店の洗練され落ちついたムードは素晴しかった。ゴミ箱代りに使用していたペンキ塗りの大き

なドラム缶までが絵になるといった具合。

「神戸味覚地図」(昭和三十八年・創元社)や「ナイト・イン・コーベ」(昭和四十五年・日東館)には、なつかしのベンガルのカレーライスが紹介されている。学生時代に、時々味わったベンガルのカレーも、店自体がなくなってしまう、もう二度と味わうことができなくなってしまった。「神戸味覚地図」には、「カレーは一日前に仕込んである。牛肉のほかに、チキン、豚など味のベ-



スに入れているし、ニンニクも適当に利いている。」とベンガルのカレーが描かれている。また、「ナイト・イン・コーベ」の方では「このカレーは香りがよく辛いめだが、子供でも喜ぶ味だ。肉のかたまりも四個ほど入っている。」と書かれている。こうやって、いくら活字を並べてみてもベンガルのカレーの味を再現することはできない。ちょうど、四十五歳の私がベンガルのカレーを味わった頃の年齢二十二歳に戻る事が不可能なように……

本誌昭和五十四年六月号に掲載され、後に「私のびっくり箱」(昭和六十年・神戸新聞出版センター)に収録された竹中郁の「堀辰雄の記念地」というエッセイがある。その中で、前述の堀辰雄「旅の絵」に出てくるホテルがあった場所にあるレストラン「ふじい」が紹介されている。このレストランは、昭和五十四年四月二十七日に閉店したという。場所は中山手通り生田神社裏。消防署の建物から東へ三、四軒目のところにある筈であった。

昨年夏、私はこの堀辰雄ゆかりの地にあるレストランを見つげるため現地を訪れてみた。しかし、「ふじい」なる店はすでになく、あらかじめ調べておいた電話番号のダイヤルを廻しても、つながらなかった。つくづく、東京に住んで神戸について調べることのハンディを感じた。



△筆者紹介▽

一九四一年神奈川県鎌倉市生まれ。神戸大学経済学部卒業。現在、住友海上火災保険奨励勤務。「野のしおり」「Blea Anchor」「季刊読書手帖」などの書店誌に掲載された神戸に関する随想は、古き良き時代の面影をしのばせる。著書に「木のある風景」。